

第4回
表現農場（共創勉強会）
プログラム

開催日時：2016年10月15日（土曜日）15:00～18:30

会場：早稲田大学西早稲田キャンパス63号館2階第5会議室

ファシリテータ（全体司会）：西 洋子（東洋英和女学院大学）

タイムテーブル

1. 萌芽（「共創」に関する講演）

[15:00-15:30] 講演①

「共創と障害（仮）」

三輪 敬之（早稲田大学）

異質で多様な人々が、対等感をもってともに生きていくためにはどのようなことが必要とされるのか。“障害”を切り口として、“支援すること”から“ともに創りあうこと”への志向における共創の潜在性について考えてみたい。

[15:30-15:35] 休憩5分

[15:35-16:05] 講演②

「共創によるまちづくり」

那須原 和良（清水建設株式会社、早稲田大学井口研究室0B）

東日本大震災以降、まちづくりにおいて「自・共・公」の役割が問われている。

以前、まちは「共」で成り立っていたが、現代では「共」の存在が薄れてきてしまった。

先進技術を用いた「共創」によるまちづくりについて考えてみる。

[16:05-16:10] 休憩5分

2. 種まき（「共創」に関する話題提供と討議）

[16:10-16:30] 話題①：話題提供者15分 質疑応答 5分

「光学素子を用いた両眼視差拡大・反転ツールによる物体の奥行き感への影響に関する研究」

堀内 智貴（早稲田大学上杉研究室助手）

高齢化社会に向けて、加齢により影響を受ける奥行き感に係るヒューマン・インタフェースの研究は重要性を増している。このような奥行き知覚の変化の体験を目指して、実物体の奥行き感を変化させるために両眼視差を光学的に拡大反転させるツールを考案し、その影響を調査した。

コメンテータ：箕浦 舞（早稲田大学郡司研究室博士2年）

[16:30-16:45] 話題②：話題提供者10分 質疑応答 5分

「絵本を題材とした身体表現における共創的創作プロセスの成立要因について」

河田 真理 (こどもバレエ教室 Dance Ange 主宰)

絵本を題材とした身体表現における創作プロセス、すなわち、「個—他者」「個—環境」との関わりの様相について、受講学生の内省から検討を行い、「共創的」創作プロセスの成立要因について考察する。

コメンテータ：高橋 卓人 (早稲田大学三輪研究室修士2年)

[16:45-17:30] 話題③④⑤：話題提供者 5分 コメンテータ 5分 質疑応答 5分

話題③「私の思う「共創」を目指して～障害を持つ立場からできること～」

佐藤 夏希 (みんなのダンスフィールド・コーディネータ)

表現の場で成立している共創が、社会でなかなか実現されないのはなぜか。

心理的バリアとは何を指すのか？障害者側からもバリアを作っているのでは？

障害のない人たちと共に歩む、インクルーシブとはどういうことなのだろうか。

これらに対し、障害を持つ立場から我々の姿勢を振り返り、問題提起がしたい。

コメンテータ：菅野 雄大 (早稲田大学三輪研究室修士2年)

話題④「モバイル音-触覚インタフェースの開発を通して」

河村 和俊 (早稲田大学三輪研究室修士1年)

要旨は後日公開

コメンテータ：相馬 巧 (早稲田大学三輪研究室学部4年)

話題⑤「一軸手あわせ表現インタフェース-卓上型デバイスの現場適用を通して-」

林 龍太郎 (早稲田大学三輪研究室修士2年)

手あわせ表現では、身体を通して、多様な人々の間でのコミュニケーションを開き広げる可能性を持っている。この手あわせ表現中のダイナミクスの解明を目指し、1軸での計測や可搬型の卓上デバイスを開発し、自閉症等の発達障碍の児童が通う、児童福祉施設にて現場適用を行ってきた。今回は、計測ができたデータの違いだけではなく、その様子に着目し検討を行う。(仮)

コメンテータ：山川 裕人 (早稲田大学三輪研究室修士1年)

[17:30-17:40] 休憩10分

3. 栽培（全体討議）

[17:40-18:20] ファシリテータ（司会）：高橋 卓人、林 龍太郎

4. 収穫（まとめ）

[18:20-18:25] 三輪敬之

[18:25-18:30] 次回の日程確認と話題提供者の選出

三輪研究室OB(OG)および研究室以外の方々のご参加をお待ちいたしております。
事前に参加が確定している方は下記URLの出席登録・お問い合わせフォームより
ご連絡ください。

<http://www.miwa.mech.waseda.ac.jp/cocreation/cocreation.php>

当日参加も大歓迎です！